

成果の説明書

(氏名) 八木橋 慶一	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究活動</p> <p>『地域政策研究』第24巻第1号(高崎経済大学地域政策学会)に「フェアシェアズ・モデル：富をめぐる社会的企業の新しいかたち」を掲載した。これは、英国シェフィールド・ハラム大学のローリー・リドリー＝ダフ教授らが執筆した書き下ろし論文「Wealth, Social Enterprise and the FairShares Model」を翻訳したものである。また、共編著を執筆し、令和4年春に出版予定となっている。</p> <p>② 教育活動</p> <p>令和3年度は、前年度に引き続き「社会起業論」(前期)、「NPO論」(後期)、「コミュニティビジネス論」(後期)の3つの講義を担当した。いずれも対面とオンライン配信のハイフレックス型授業となったが、「NPO論」ではオンラインを活用して遠方の実務家をゲストスピーカーとして招聘、具体的な活動を紹介してもらう機会を設けた。同様に他の講義でも実務家を招聘したが、これらは対面形式となった。講義後に提出を求めたレスポンスシートの内容から、受講生が社会起業や非営利組織の実態、コミュニティビジネスによる地域活性化の状況を深く理解できたことを確認した。</p> <p>また「基礎演習」(後期)、「演習I」、「演習II」の3つのゼミを担当した。基礎演習(2年ゼミ)では、社会起業やソーシャルビジネスに関する基本文献の輪読を行った。「演習I」(3年ゼミ)では、前期に社会起業や社会的連帯経済に関する文献の輪読を行い、後期にはグループ別での調査を行ってもらった。グループ内で関心を持った専門文献の紹介だけでなく、フィールドワークを行うことで理解を深めた。卒業論文の執筆に必要な知識や情報を学生が習得したことを確認した。「演習II」(4年ゼミ)では、卒業論文の指導を行った。全員一定水準以上の論文を提出することができた。</p> <p>③ 学内業務・社会活動など</p> <p>学内業務では、昨年度に引き続き入試担当学部長補佐として学部入試全般にわたる業務に携わった。</p> <p>社会活動では、日本政策金融公庫高崎支店が中心となり、高崎商工会議所などと連携して発足させた「高崎ソーシャルビジネスサポートネットワーク」の顧問を引き続き務めた。また、高崎市から職員研修を依頼され、「政策形成基礎研修」の講師を担当した。</p> <p>学会活動では、日本政治法律学会、日本地域政策学会、日本ソーシャル・イノベーション学会の理事を務め、日本地域政策学会では編集委員会副委員長として学会誌の発行に携わった。そのほか、日本NPO学会の第24回研究大会(令和4年6月開催)の大会企画委員を務め、準備に携わった。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>特になし。</p>	

3 次年度以降の計画・抱負

- ① 単著の出版に向けた研究を行う。
- ② 上記以外に継続して行っている研究成果をまとめ、発表する。
- ③ 卒業論文作成のために、演習Iと演習IIのそれぞれできめ細かい指導を行いたい。